

操作性における新機能と改善点:

- [2-D Math での自動補完](#)
- [検索と置換の強化](#)
- [下付き文字の処理の改良](#)
- ['l'、'D'、'gamma' 等の名前前の使用](#)

Maple は常に数学ソフトウェアの使いやすさを追求し、新しいユーザがすぐに使いこなせるようにするとともに、経験のあるユーザには作業効率を高めるためのツールや柔軟性を提供してきました。Maple 17 では、[ワンステップアプリケーション作成機能](#)のメジャーアップデート、および、プログラミングインターフェースの操作性における改善で直感的な [Clickable Math](#) ツールを強化しました。[2-D Math での自動補完](#)により、コマンドの入力がさらに簡単になりました。2-D Math の式に含まれる名前を検索するための[検索機能と置換機能](#)が強化されました。また、[下付き文字の入力](#)がより直感的になり、さまざまな[変数名](#)をユーザ計算で使用できるようになりました。

2-D Math での自動補完

2-D Math でコマンドや関数名を入力するときに、一義的なアイテムに対してすばやく補完が行われるようになりました。アイテム名が一義的で補完可能な場合、黄色のツールチップがポップアップ表示されます。Tab または Return/Enter キーを押すと、表示されたアイテムが挿入されます。

検索と置換の強化

検索機能と置換機能が強化され、単純な名前前の 2-D Math 式も検索できるようになりました。たとえば、'x' を検索すると 2D 式 $x^2 - y + 10$ の最初の項の x が検出されます。

下付き文字の処理の改良

Maple には、2種類の下付き文字があります。

- リテラル下付き文字は、変数名そのものの一部であり、いかなる種類のインデックスとしても解釈されません。
- インデックス下付き文字は、配列またはベクトルに含まれている要素に対して直接インデックス参照します。

Maple 17 では、これらの下付き文字の両方で入力方法が改善されています。また変数名の下線文字を明示的に作成するためのバックスラッシュの入力が不要になりました。

- リテラル下付き文字を作成するには、基本名の後に下線を 2 つ入力し、続けて下付き文字を入力します。たとえば、'a'、'_','_'、'b' の順に入力します。

> a_b

$$a_b \quad (3.1)$$

- インデックス化した下付き文字を作成するには、Ctrl + Shift + 下線 (Mac OS X では Command + Shift + 下線) を使用するか、下付き文字を角括弧で囲みます。

> a_b

$$a_b \quad (3.2)$$

• 下線を入力するには、キーボードで下線キーを入力します。

> a_b

$$a_b \quad (3.3)$$

詳細は、[下付き文字の処理の改良](#)を参照してください。

'I'、'D'、'gamma' 等の名前の使用

これまで、Maple では一部の名前が数学ライブラリ用に予約されており、ユーザは自由に使用できませんでした。たとえば、Maple では大文字の 'I' は虚数単位を意味し、恒等行列を表すためには使用できませんでした。同じように、変数 A、B、C を定義した後に、同じパターンで D を定義することができませんでした。Maple 17 では、これらに対応できるようになりました。

> **local** I := $\begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$;

$$I := \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} \quad (4.1)$$

> $2 \cdot I$

$$\begin{bmatrix} 2 & 0 \\ 0 & 2 \end{bmatrix} \quad (4.2)$$

> **local** D := 5 :

> D + D

$$10 \quad (4.3)$$

詳細は、[ローカル名](#)を参照してください。

参照

[Maple 17 の下付き文字の処理の改良](#)、[Maple 17 のローカル名](#)、[ClickableMath](#)、[カスタマー要望一覧](#)